

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671600233		
法人名	有限会社 康生会		
事業所名	グループホーム 三愛の里		
所在地	〒621-0002 京都府亀岡市千歳町千歳白髭17番地		
自己評価作成日	平成22年9月2日	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671600233&amp;SCD=320">http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671600233&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成 22年 10月 20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の立場に立ち、人生の先輩として尊敬し、学ばせていただく。謙虚でかゆいところに手の届く介護を心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからは亀岡の町並みが遠望され、畑の四季の移り変わりが眼下に眺められる立地にあります。地域に根差した関わりを大切に考え様々な行事や関わりを丁寧に積み重ねています。平安の時代からある歴史深い出雲神社での祭りやお参りに行き、地域の運動会を見学し、文化祭に出展をするなど多彩な地域との関わりがみられます。また、市役所や自治会と協働し認知症サポーター研修の講師として出向き、地域の高齢問題に役立てられています。日々、利用者から学ぶことを第一に考え、年齢の積み重ねの中での経験は必ず学びになると考えられています。ホームの生活を重ねる事で、利用者状況も重度化してきましたが、出来ることを見つけ、チャレンジしながら、尊厳を導き出す中で落ち着きに繋げて行くなど利用者本位を追求されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加したりホームでの行事には近所の子供達を誘い交流を深めている。	「住み慣れた地域で楽しく過ごし尊厳を大切にする」というホーム理念が掲げられている。利用者から学ぶ姿勢など理念に基づいた支援がなされているかを職員間で振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りに参加、出品。 近所の清掃をしている。運動会の観戦。	自治会に加入し、祭りや運動会など地域行事に参加している。保育所の子どもたちから作品が届いたり、運動会の見学に行くなど交流がなされている。また、自主的にホームの周りを掃除し、地域の方と出会ったときや散歩時などには挨拶を交わし、何かあれば相談に来られることもあるなど地域に溶け込んだ暮らしが営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンの実施。 シルバー110番。 老人会の代表の方に運営推進会議に参加してもらい、利用者の現状やケアの方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	朝礼やカンファレンス等で報告している。	老人会や市職員、地域包括支援センター職員の参加があり、家族から偏ることなく意見を聞きたいとの思いから、持ち回りで出席を頂き2カ月に一度開催している。入居者状況や行事の報告が行われ、参加者との意見交換があり有意義な場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で問題点を伝え、お互いに理解を深めていける様、話し合っている。	市職員は運営推進会議への出席があり、認知症研修の講師依頼があったり、困難事例など意見交換の機会を持つなど、協働の関わりが培われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を伴う利用者に対しての対策として玄関の施錠はしている。	利用者から学ぶ事をホームで徹底している。利用者の気持ちや立場になることで、拘束にならないような対応を心がけ、研修を行い職員理解を深めている。玄関の鍵は夜間以外は施錠せず、外出希望や帰宅願望の方には様子を見て見守りや同行を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	連絡は漏れのない様に伝え、内出血の跡は、原因を追究して防止に努めている。		

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けて学んだ事を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をして理解や納得をしていただける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。いつでも誰にでも意見を伝えてもらえるように最初に話している。	家族会を年2度行い、意見交換の機会としている。家族の来訪時にも声かけを行い意見や提案を聞くようにしている。出された意見や要望は利用者個人の要望などが多いが、共通するような内容については運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月行い、職員の意見に応えている。	職員会議で活発に意見のやり取りがあり、ケアの基本は利用者に寄り添う事であると確認するなど運営に反映させている。職員の意見や提案についても、個別に面談を行うなどして解決の方向を検討したり会議で話し合う場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、経験、意欲などを考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	京都府、認知症介護実践者研修、リーダー養成研修をはじめ、府・市主催の研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会などに参加して研修や意見交換、情報交換している。又、他のグループホームで体験(研修)をしている。		

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望、思いを出来るだけ納得されるまで聞いてあげてくれることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時より傾聴を心がけて安心して頂く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より要望を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、尊厳を重んじて接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の様子を伝え家族の協力を得るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	心に残ってる思い出話をじっくり聞いてあげる。気軽に訪問したり、外出を支援している。	知り合いや友人の来訪も多く、時には友人宅への訪問を支援するなどしている。手紙が来たり年賀状を出し交流が継続出来るようにしている。今まで通っていた理美容院への送迎やお墓参りなど個々の思いの継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自得意とされることに参加してもらい、輪を作る。又、話に花を咲かすことを心掛けている。		

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	入居時には家族から意向や希望を聞き記録に残し、今まで利用していた事業所からの情報なども参考にし思いの把握に努めている。意向の把握が難しい利用者に対しては、入居直後の様子や行動をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方などを把握し、趣味なども続けられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜とも暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回ケアカンファレンスを行い、必要時は臨時にチームでモニタリングを行い介護計画を作成している。	入居後1～2ヶ月で利用者の様子を見てカンファレンスを行い、利用者や家族の希望を基に職員間で検討しプランを作成している。毎月カンファレンスを実施し評価を行い、変化がない場合は6カ月ごとに、変化がある場合は随時見直している。医師や看護師の記録や意見を参考にプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースレコードを毎日記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況をふまえ柔軟に対応している。		

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ、掛かりつけ医の受診を支援している。	家族や利用者の希望に合わせかかりつけ医を決めている。月1度、協力医の訪問や、看護師の医療連携による24時間の対応や週1度の訪問で健康管理などが行われている。必要時には歯科の往診もあり時には家族の行けない時の医療への送迎も行われ、利用者の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療情報を共有し、看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換し、協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療機関と話し合いでチームで支援に取り組んでいる。	入居時、ホームの看取り指針を説明している。家族の要望や希望に応じ、医師を交えた話し合いをもち職員のチームワークで支援を行っている。グループホームとして出来ることや対応についても検討し今後を模索している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二ヶ月に一回救助訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回避難訓練をし、地域消防団とも連携している。	避難訓練は、年に一度消防署の立ち会いや毎月事業所独自で昼夜想定して行っている。回数を重ねることで、利用者も職員も避難に習熟できるようにしている。地域の自衛消防団の協力を得て、地元の防火水槽を使用した消防訓練なども行っている。	

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋に各自鍵をかけ、自己のプライバシーを尊重しながら相手の気持ちになって話しをするよう心掛けている。	一人ひとりの尊重を大切にさりげない声かけを意識し、どのような場面でも無理強いするようなことがないよう支援している。希望によっては居室の内側に鍵がかけられ、プライバシーの確保がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思われる事を率直に言って頂き、希望に添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の各々の体調を伺いその人に応じた生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人によって、おしゃれの度合が違うが、気分に応じて服も選ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分から進んで準備や食事の後片付けをされるので自分に合った手伝いをされている。	栄養師である職員が作った献立をもとに、利用者と職員が力をあわせ季節の物を調理し提供している。栗の皮むきなどは多くの利用者が進んで剥いてくださるなど、信頼の中で大きな力の発揮がうかがえる。また、職員もテーブルに着き同じ物を頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養必要量を確認し、体重が増えることがないよう食事の内容を考え、野菜や豆腐類をうまく使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを嫌がられる方もおられるが、できるだけ本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけをしたり、自分で排泄できる様にトイレへ誘導している。	排泄の自立維持に努めている。散歩や食事前には声かけを行うことで失敗を防ぐなど配慮している。声掛けは出来るだけさりげなく行い、周りにも配慮し大きな声での誘導がないようにしている。また、夜間は転倒や安心の為ポータブルトイレを使っている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ、体操、散歩、レクリエーションで体を動かしている。 自家製のお茶(薬草)をブレンドして飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の悪い日は入らないが、ウォシュレットや清拭を行う。 できるだけ希望やタイミングに合わせて楽しんで毎日入ってもらうよう努めている。	2日に1度は声かけし入浴できるように準備している。希望があれば毎日の入浴も可能で、一人ずつ湯を入れ替えて気持ち良く入れるようにしている。拒否傾向にある方には、声かけに工夫したり、毎日の着替えを支援している。時にはゆず湯などで季節を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神的に不安定になられた時など、話を聞き安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの情報を見て薬の説明書を確認し、本人に手渡しして服用するまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事を楽しんでもらえるような環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の状況に応じて散歩に出かけたり、外食会を行って楽しんでもらえるよう努めている。 買い物好きな人に同行してもらったりしている。	天気の良い日には希望に合わせ、神社や寺に出かけている。畑の収穫物を眺めながらの散歩や玄関のベンチで日光浴も楽しんでいる。毎月希望に応じた外食をする機会を設け、花見の季節には施設を借り切り家族とともに楽しめる企画をしている。	

グループホーム三愛の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望される欲しい物は、ご家族が持ち寄ったり、立て替えて購入するなど希望を叶えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと、ご本人自ら電話を取り次いだり、掛けるなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用部分に花を飾って、ご利用者様の方にと作った手芸品を飾って歌なども流して安心して共用出来る空間作りを心がけている。	ホーム長や職員が持参した野の花がリビングにあふれ季節感を出している。民家の改造型のホームは、一見不便そうな造りが工夫によって住み心地の良いホームとなっている。廊下の外れからは亀岡の町々や畑が望まれ、ソファを置く事でゆっくりと景色が楽しめるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心して過せる空間や外の景色を見ながら話も出来る場所にベンチを置き楽しく過せる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や寝具を家族さんと持ち寄ってご本人が欲しい物を持ち込んでもらっている。	筆筒や机・椅子などシンプルな中に馴染みの家具を持ち込むことで安心に繋がっている。趣味であった相撲の思い出にと代々の横綱の手形や、孫からの絵や家族写真など利用者の思い出の品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアにご本人に良くわかる写真などを貼り、飾りを付けて居室を確認出来る工夫をし、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		